

# 西洋館周辺歴史ガイドマップ

## 7旧黒須銀行 市指定文化財（建造物）



明治33年（1900）に繁田武平満義が堅実主義と華客本位を本旨として設立。頭取発智庄平、常務取締役繁田武平翠軒、顧問渋沢栄一。現存する建物は土蔵造りで、営業所として明治42年竣工。当時のカウンターが残る。道徳銀行と呼ばれ、渋沢栄一が揮毫した扁額が埼玉りそな銀行に飾られている。

内部公開日はアリットへ問合せ



## 8繁田本家長屋門

繁田家は江戸時代に代々黒須村の名主を務めた豪農商で、江戸期後半には、茶業や味噌醤油醸造業を始めた。明治・大正期にかけて町長も輩出し、当主の繁田武平満義らは、黒須銀行の設立にも中心的役割を果たした。幕末には武州世直し一揆による被害を受け、長屋門に切り傷の跡が残されている。

見学は外観のみ



## 9当摩本店

明治初期に建てられた木造2階建ての商家。1階が店舗で、棟続きに土蔵造りの場合（茶の調合場所）が隣接する。店舗の中は畳敷きで「座売り」という昔ながらの販売スタイルが今も残る。狭山茶を輸出していた時のラベルも飾られている。

団体見学は要連絡（Tel 04-2962-2351）



## 10春日神社

黒須村の鎮守。宝暦14年（1764）に再建された本殿は市指定文化財（建造物）になっている。各所に色彩豊かな花鳥霊獣の彫刻が施され、江戸時代中期から後期の神社建築の特徴を残している。

本殿は覆屋の中にあり拝観不可



## 11細芳織物工場

のこぎり屋根の織物工場はかつて市内に数多く存在したが、いまではここでしか見られなくなった。トヨタ自動車のルーツ豊田佐吉が大正時代に考案したY型織機が今でも使われ、味わいのある織物を製作している。

内部見学・購入は要連絡（Tel 04-2962-2210）



## 12長泉寺

本尊は釈迦如来像。大黒天を祀り、地元では「甲子様」と呼ばれ親しまれている。市指定文化財の鉄造不動明王立像（室町時代）（普段は公開していません）を安置している。墓地には、石川幾太郎と同世代の代議士、粕谷義三の墓がある。義三は、藤沢村の出身で、ミシガン大学に留学して、帰郷後粕谷家に養子に入り、政治家を志した。憲政史上はじめて全会一致で衆議院議長に就任した人物で、能書家としても知られ、多くの揮毫を残している。



## 黒須の名の由来

黒須の名の由来は、「砂鉄が多い川砂のため、入間川の中州が黒く見えたことから『黒須』とつけられた」「この地で入間川が屈曲し、「くるり」、「くるわ(曲輪・郭)の屈曲を現す言葉から変化した」などの説がある。



本店工場推定復元模型

## 元ジョンソン基地

戦後の米軍基地。「入間にはアメリカがあった」というほど、この地域の人には大きな存在だった。基地で働くアメリカ人が住んだ平屋で三角屋根の家は「ハウス」と呼ばれ、ジョンソンタウンのほか現在もいくつか残っている。返還された跡地は航空自衛隊入間基地や稲荷山公園、彩の森入間公園等になっている。

## 13蓮花院

蓮花院は、真言宗智山派の寺院で、創建は建仁元年（1201）、寂蓮法師による開基と伝わる。境内墓地には、石川組製系の石川一族の墓がある。観音堂本尊の木造千手観音菩薩立像をはじめ、5つの市指定文化財がある。



蓮花院観音堂は、天保6年（1835）に再建されたもので、吉川緑峰、江野椽雪・梅青親子の手による天井絵が見事。

境内には江戸時代に多くの人が念仏供養を行ったことを示す延宝9年（1681）銘の千日回向名号塔や幕末の彰義隊遭難者を供養する石造の地蔵がある。

問合せ（Tel 04-2962-2254）

## 14愛宕神社

扇町屋村の鎮守。祭神は天照大御神で、正平16年（1361）に新田義興、元中5年（1388）に別雷神を祀ったといわれている。

境内には、入間川に在陣していた鎌倉公方足利基氏に討ち取られた義興の首塚が伝わっている。



## 15豊岡公会堂跡

大正期に豊岡町長繁田武平翠軒の「町では公民教育が欠かさざるもので、これを行う施設が必要」という思いからつくられた県内初の公会堂。渋沢栄一をはじめ石川幾太郎が建設費の一部を寄付した。大正12年（1923）完成し、多くの著名人を講師として豊岡大学（公開講座）が開かれ、町民が最新の知識を得る場となった。現在は跡地がUR入間豊岡市街地住宅になっている。



## 16彰義隊遭難者の碑 市指定文化財（史跡）

幕末の動乱期の最中に村人と衝突して非業の死を遂げた彰義隊の隊士達を慰霊するため大正10年（1921）に旧彰義隊頭取（隊長）本田晋により造立された。隊士達を供養するためにこの地に石造地蔵が建てられたが、道路の拡張に伴い、現在蓮花院に移されている。



## ★古道と道標

日光脇往還は、江戸時代に日光東照宮の火の番役（警護）を任じられていた八王子千人同心が八王子と日光を往復するために整備された道。山岳信仰の参拝者や商人をはじめ、庶民も多く利用した。いまも残る道標には、人々が目指した地名が刻まれ、当時の盛んな往来を現在に伝えている。

## ●遺跡

霞川流域の台地上には多くの遺跡が所在している。入間市駅南口側には金堀沢遺跡、金堀沢Ⅱ遺跡、北口側では久保遺跡、大将陣遺跡など、いずれも縄文時代の集落が確認されており、古くから人々が住んでいたことが窺い知れる。

文化財の見学に当たってはマナーを守り、所有者の方や他の見学者・参拝者の迷惑にならないようお願いします。